

平成 10 年度  
埋蔵文化財緊急発掘調査概報

昭和町遺跡 B 地点  
高 烟 遺 跡  
七 尾 東 遺 跡

1999年3月  
吹田市教育委員会

## 序

吹田市におきましては、昭和49年度以来、国庫補助事業として埋蔵文化財の発掘調査を数多く行ってまいりました。その間、平成7年の阪神淡路大震災の発生によって、その復興事業に伴い発掘調査を実施しなければならないという予測しない事態もありました。

今回報告いたします昭和町遺跡B地点、高畠遺跡、七尾東遺跡は平成10年度に住宅の建築工事に伴い国庫補助事業として発掘調査を実施しました。

本市教育委員会におきましては、今後、不測の事態にも備えつつ、日常の業務を円滑に進めしていくよう努力していく所存ではありますが、これにはやはり、市民の皆様のご理解をいただけなければ、困難なものといえます。

市民の皆様におかれましては、発掘調査をはじめとする本市の文化財保護行政に対し、今後ともより深きご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成11年3月

吹田市教育委員会

教育長 今 記 和 貴

## 例　　言

1. 本書は平成10年度国庫補助事業として実施した、昭和町遺跡B地点、高畠遺跡、七尾東遺跡の発掘調査をまとめたものである。
2. 発掘調査地点は次のとおりである。

昭和町遺跡B地点	吹田市昭和町1288-8
高畠遺跡	吹田市昭和町1446-5
七尾東遺跡	吹田市山田南1124-4、1125-5
3. 発掘調査の整理作業は吹田市岸部北4丁目10番1号、吹田市立博物館で実施し、資料の保管も同所において行っている。
4. 本書は第1章・4章を賀納が、第2章・3章を増田が分担して執筆した。
5. 図中の方針は磁北を示す。本文中の遺物番号は図版、添図とも統一した。縮尺は1/4である。
6. 発掘調査の実施にあたっては、安岡正博氏、安岡正明氏、吉田隆氏、吉田フミ子氏、山本裕敏氏をはじめ、多くの方々の協力を得ました。記して感謝申し上げます。

---

## 調査参加者名簿

調査主体 吹田市教育委員会

調査指導 大阪府教育委員会

調査担当 賀納章雄・増田真木

調査員 花崎晶子

調査補助員 林裕子・木船安紀子

## 目 次

第1章 調査の契機.....	1
第2章 昭和町遺跡B地点の発掘調査.....	2
第3章 高畠遺跡の発掘調査.....	11
第4章 七尾東遺跡の発掘調査.....	12

## 図 版 目 次

図版1 昭和町遺跡B地点 調査地点・調査区断面	
図版2 昭和町遺跡B地点東調査区(1) SD01検出状況・SD01断面	
図版3 昭和町遺跡B地点東調査区(2) 調査状況・SD01調査状況	
図版4 昭和町遺跡B地点西調査区(1) 調査状況・SD01調査状況	
図版5 昭和町遺跡B地点西調査区(2) SK01調査状況・SK01断面	
図版6 昭和町遺跡B地点 出土遺物	
図版7 高畠遺跡 調査地点・調査状況	
図版8 七尾東遺跡 T1・T2	

## 挿 図 目 次

第1図 発掘調査地点.....	1
第2図 調査地周辺の遺跡.....	2
第3図 調査地点位置図.....	3
第4図 確認調査トレンチ配置図.....	4
第5図 トレンチ土層断面図.....	4
第6図 調査区平面図.....	5
第7図 調査区土層断面図.....	6
第8図 調査区平面図.....	6
第9図 SD01実測図.....	7

第10図 SK 0 1 実測図	7
第11図 出土遺物実測図	9
第12図 調査地点位置図	11
第13図 調査区平面図	11
第14図 上層断面図	11
第15図 七尾東遺跡発掘調査地周辺図	12
第16図 調査区平面図	12
第17図 調査区上層断面図	13
第18図 T 2 遺構平面図	13

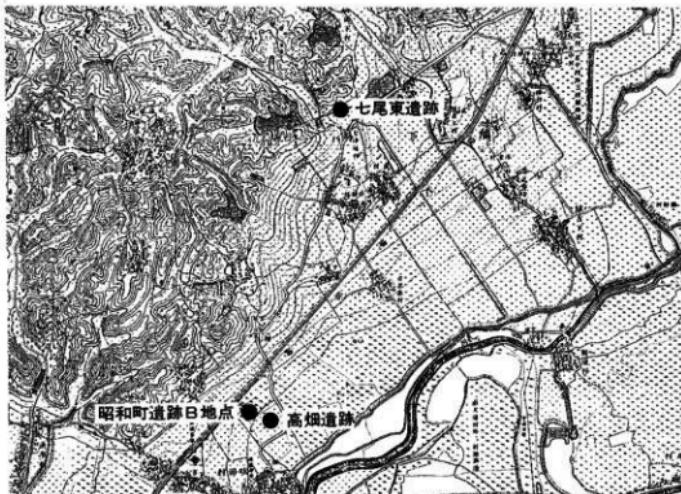
## 第1章 平成10年度発掘調査の契機

平成10年度は、昭和町遺跡B地点、高畠遺跡、七尾東遺跡などにおいて発掘調査を実施した。これらの発掘調査はすべて住宅の建築に伴うものである。

昭和町遺跡B地点の調査地点（昭和町1288-8）は、当初、昭和町遺跡B地点の周辺地にあたるということで、平成10年8月24日に確認調査を実施した。その結果、古墳時代の遺物を多数検出するに至り、昭和町遺跡B地点の包蔵地域が当地にまで拡大することが新たに判明し、今回、9月2・3日の2日間にわたって、その拡大調査を実施したものである。

高畠遺跡の調査地点（昭和町1446-5）は、遺跡の南西部に位置する。調査地点のすぐ西側では、住宅の建築工事中に造構・遺物が発見されており、調査地点においても造構・遺物が包蔵されている可能性が高いことから、平成10年10月16日に、遺跡包蔵の有無を確認することを目的に調査を実施した。

七尾東遺跡の調査地点（山田南1124-4、1125-5）は、遺跡の北部に位置する。調査地点のすぐ南側は七尾東遺跡の第1次調査地点にあたり、東隣接地は第2・3次調査地点となる。今回の発掘調査は平成11年1月26日に、造構・遺物包蔵の有無を確認することを目的に実施したものである。



第1図 発掘調査地点 (1 : 40000)

## 第2章 昭和町遺跡B地点の発掘調査

### 1. はじめに

#### (1) 位置と環境

昭和町遺跡B地点は吹田市の南端近くに位置し、地形的には千里丘陵南方の淀川・安威川の沖積作用によって形成された沖積平野に丘陵が埋没していく地形的変換点にあたり、丘陵東南端から安威川に向かって突出し、半島状の微高地を形成する吹田砂堆の北東側に接する地点である。吹田砂堆は千里丘陵南辺の軟弱な洪積丘陵が、海進によって侵食された海食崖となって独特の緩やかなカーブを描きながら吹田方面に展開し、その東端で砂洲状に安威川に突き出て半島状の微高地を形成している。この吹田砂堆は大阪平野の北東部を形成する淀川低地と南西の大坂低地を画しており、標高5mを越す砂堆の微高地は淀川下流域の低湿な平野の中では際立った存在であり、集落立地には好条件な地域であった。昭和初期までの一带の集落の広がりは吹田砂堆の範囲とほぼ一致したものであり、昭和になってからその集落の両側に新たに昭和



- |             |           |
|-------------|-----------|
| 1. 昭和町遺跡B地点 | 6. 高浜遺跡   |
| 2. 高畠遺跡     | 7. 都呂須遺跡  |
| 3. 昭和町遺跡    | 8. 元町遺跡   |
| 4. 高城遺跡     | 9. 片山遺跡   |
| 5. 高城B遺跡    | 10. 西の庄遺跡 |

第2図 調査地周辺の遺跡



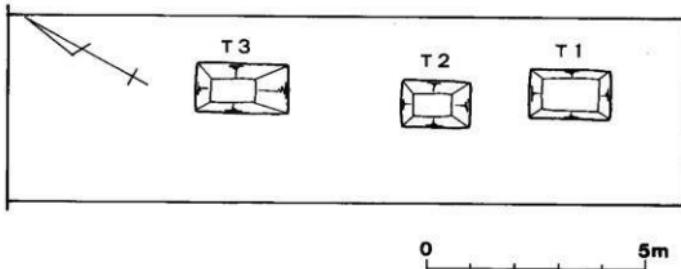
第3図 調査地点位置図 (S = 1 : 5000)

町等の集落が広がっていき、吹田砂堆の範囲を超えて拡大していくのである。このように昭和町一帯は昭和初期から住宅開発が行われていたことから遺跡等の状況は明らかでなかったが、ここ数年の間に住宅の建替が進み、その開発に伴う試掘調査等によって高城遺跡、昭和町遺跡等が新たに確認され、広い範囲に遺跡の展開している可能性が考えられるようになってきた。

一帯の遺跡の展開状況をみると、吹田砂堆上に都呂須遺跡、高浜遺跡、神境町遺跡等が確認されている。一方、吹田砂堆の北西側では高城遺跡、高城B遺跡、高畠遺跡、昭和町遺跡、昭和町遺跡B地点等が確認されており、これらの遺跡では遺構面である洪積粘土層が比較的浅いレベルで確認され、微高地的立地を示している。

高浜遺跡では縄文時代中期及び弥生時代中期・後期の土器が出土し、都呂須遺跡では弥生時代前期・中期の土器が出土している。次いで、古墳時代になると都呂須遺跡、高浜遺跡で布留式期の土師器の出土が、昭和町遺跡、昭和町遺跡B地点では初期須恵器の出土が、高畠遺跡では古墳時代の土坑等が確認されている。縄文時代から古墳時代にかけてのこれらの遺跡の状況は遺物の出土が確認されているのみで明確な遺構は確認されていないものが多く、その性格等は明らかでないが、遺物の遺存状況は良好であることから、一帯に当該期の集落等の展開している可能性が高いと考えられる。

市域南方を流れる三国川（現神崎川）が延暦四（785）年に淀川と連結するための開削工事が行われたことが史料にみられるが、以後、西日本と京都を結ぶ水運において吹田の地はその港町として重要な位置を占めるようになったと考えられ、一帯では奈良時代の遺跡は明らかでないが、平安時代や中世の遺跡数が増大する。高浜遺跡では平安時代初期の遺物が認められ、

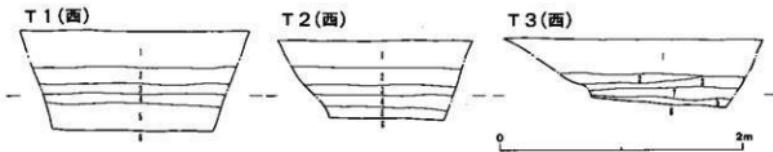


第4図 確認調査トレンチ配置図

他に平安宮の造宮瓦窯である吉志部瓦窯跡の瓦も確認されている。高城遺跡、高城B遺跡では平安時代後期を主とする遺構・遺物が確認され、都呂須遺跡、高浜遺跡、高城遺跡では鎌倉時代、室町時代の遺構・遺物が確認されている。

## (2) 調査の経過

吹田市昭和町1228-8において、個人専用住宅の建築が計画され、当該地が昭和町遺跡B地点の北西約20mと近接地にあたることから、平成10年8月24日に3ヶ所の調査区（T1～T3、計6.2m<sup>2</sup>）を設定して試掘調査を実施した。試掘調査では、建築予定地の北側に設定したトレンチT3において、現地表下40cm前後で確認された黒灰色粘土層(7)から古墳時代の須恵器がまとまって出土し、その下層、現地表下50cm前後において灰色粘土層を確認した。この灰色粘土層(5)は各調査トレンチで確認され、調査範囲では遺構は確認されなかったが、T3の調査の状況から古墳時代の遺構面の可能性が高いと判断された。この灰色粘土層中からは遺物は出土せず、下層で確認した灰色粘土質(6)においても遺構・遺物は確認されなかった。また、T3でみとめられた濃密な遺物包含層である黒灰色粘土層は南半部に設定したT1・T2では認められず、この2トレンチでは遺構や遺物の出土は認められなかった。



第5図 トレンチ土層断面図

試掘調査の結果、調査トレンチT3において、古墳時代遺物包含層等を確認したことから、平成10年8月28日付で事業者から文化財保護法57条の5第1項により、遺跡発見届が提出され、昭和町遺跡B地点の範囲の拡大がなされた。

また、試掘調査の結果に基づく協議の結果、建設予定範囲の内、12m<sup>2</sup>について発掘調査を実施することとし、調査を平成10年9月2・3日に実施した。調査は廃土等の関係から調査区を東西に2分割し（東調査区・西調査区）、東調査区から調査を開始し、終了後に西調査区の調査を実施した。また、現地表下28cm前後で確認された中世遺物包含層である灰色粘質土の上面までを重機を使用して掘削し、以下を人力による調査を実施した。灰色粘質土層の下層において初期須恵器等を出土する黒灰色粘土層を確認するとともにその下層の灰色粘土層上面において溝、土坑等の遺構を検出し、遺物の出土状況等から古墳時代中期の遺構面と判断された。

## 2. 調査の成果

### (1) 土層序

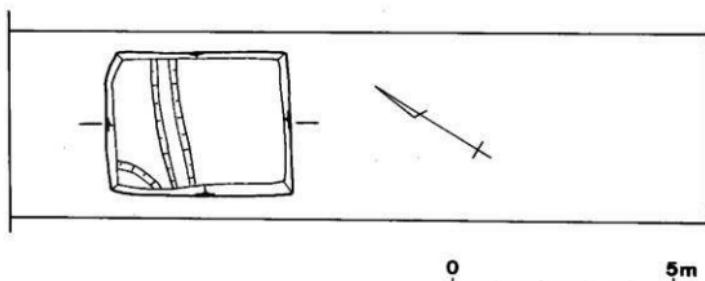
調査地の現況の地表面は標高5.9mを前後し、遺構内の堆積土を除くと基本的に5層に大別される。

I層 現状の表土層(1)で、宅地造成時の整地層である。

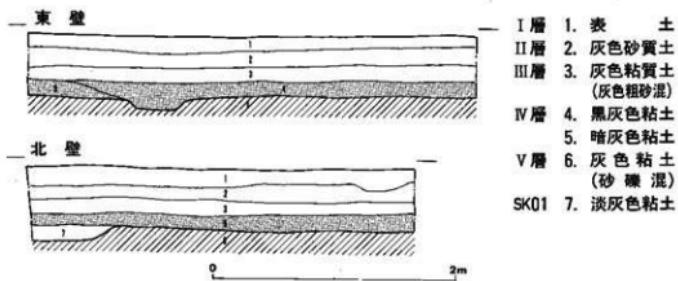
II層 灰色砂質土(2)で近世以降の堆積層と考えられる。

III層 現地表下28cm前後で確認された層厚12cmの灰色粘質土(3)の堆積層である。層中から土師器皿・土釜、瓦器柄、瓦質土釜等の出土が少量認められるが、細片で器表面も摩滅しているため詳細は明らかでない。出土遺物は限られるが、近世以降の遺物は認められないことから中世の堆積層と考えられる。

IV層 現地表下40cmで確認された層厚12~14cmの黒灰色粘土(4)及び調査区北側1/4の範囲



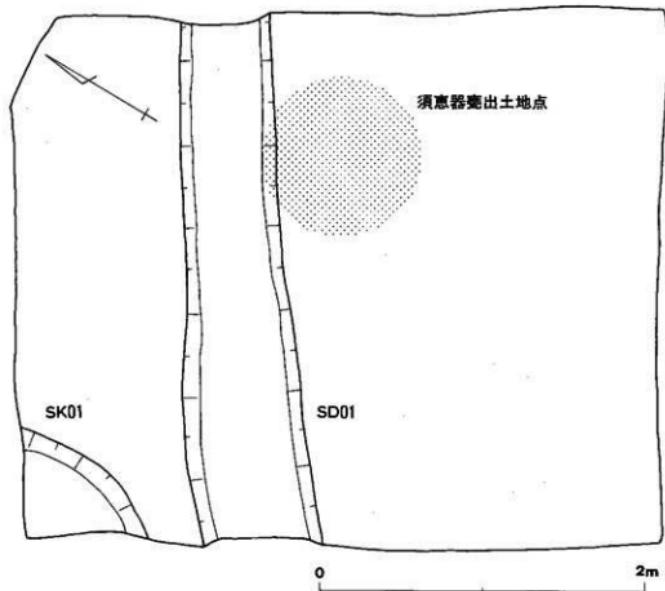
第6図 調査区平面図



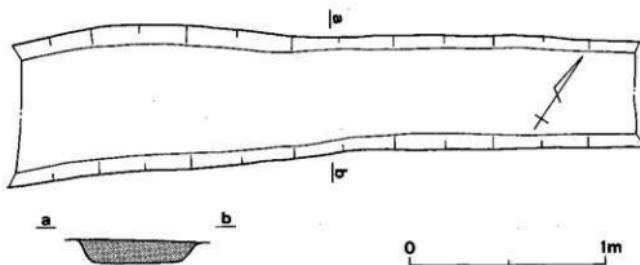
第7図 調査区土層断面図

で認められた暗灰色粘土(5)の堆積層である。黒灰色粘土層からは初期須恵器及び土師器が出土した。古墳時代中期の遺物包含層である。

**V層** 現地表下50cm前後で確認された灰色粘土(6)の堆積が認められ、造構面形成層である。調査区北半部の上面において、東西方向の溝及び土坑を確認しており、古墳時代中期の遺構面と考えられる。



第8図 調査区平面図



第9図 SD 0 1 実測図

### (2) 遺構

V層をベース層とし、調査区北西部において東西方向の溝（SD 0 1）と調査区北西端において土坑（SK 0 1）を確認した。また、SD 0 1の東半部、南側の1mの範囲に須恵器壺の破片が集中して出土しており、1個体分が復原されたが、特に据えられていた痕跡等は認められなかった。

### SD 0 1

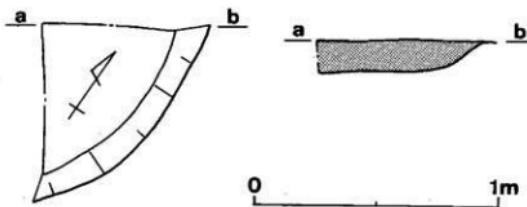
調査区北端から1mの地点ではほぼ直線的に走行方位をN55° Eにとり、幅46~76cm、深さ12cm前後である。溝底面はほぼ平らで、高低差もほとんど認められない。堆積土は黒灰色粘土層でIV層の黒灰色粘土の堆積時に一時期に堆積したものと考えられる。堆積土中では溝西半部において土師器壺体部の細片が出土したが、他には遺物の出土は認められなかった。

### SK 0 1

調査区北西端で確認し、東西70cm以上、南北74cm以上、深さ14cmである。堆積土は軟質な淡灰色粘土で、遺物は出土していない。

### (3) 出土遺物

今回の調査ではコンテナ1箱分の遺物が出土しており、中世及び古墳時代の資料である。遺構からは須恵器、土師器が出土しているが細片のため図示できるものはなかったため、包含層



第10図 SK 0 1 実測図

出土遺物を主にその概略を報告する。

a. III層（中世包含層）出土遺物

土師器皿・土釜、瓦器椀、瓦質土釜等があるが、細片で器表面も摩滅している。瓦器椀は細片のため図示できなかったが、和泉型が主であり、1点楠葉型のものが認められる。いずれも細片のため詳細は不明であるが、和泉型瓦器椀はIV期、楠葉型はII期の資料と考えられる。

1は瓦質土釜で口径23.0cmである。口縁端部を内側にやや肥厚させ、上方に伸びる短い鉤を巡らせる。体部外面は横方向のヘラ削りが認められる。

2は土師器小皿で口径9.0cm、器高1.5cmである。色調は灰白色をなす。

b. IV層（古墳時代包含層）及び造構面出土遺物

黒灰色粘土層出土遺物は、須恵器杯・杯蓋・甕・器台・高杯、土師器甕・壺・高杯等があるが、土師器の遺存状況は悪い。3～7は黒灰色粘土層、8は造構面出土である。

3は土師器甕で口径20.8cmである。口縁部はやや外反気味に上方に短く伸び、端部は内外に肥厚させている。器表面の摩滅が著しく調整等は明らかでない。胎土は1mmの石英、長石、雲母を多く含む。

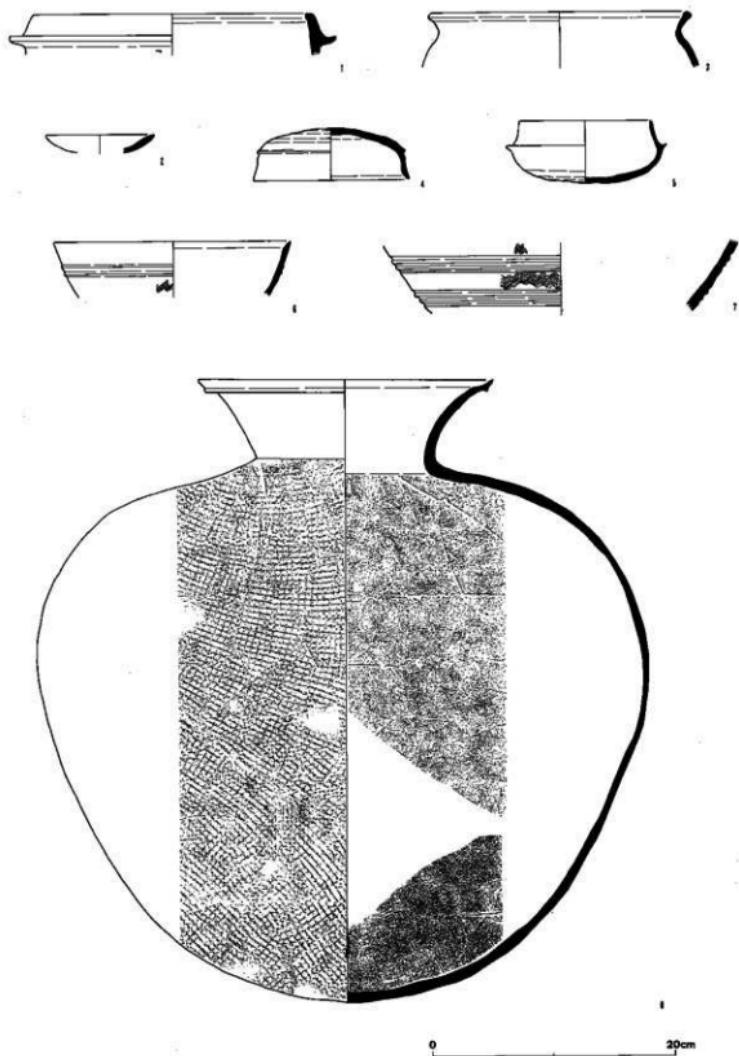
4～8は須恵器である。4は杯蓋で口径12.9cm、器高4.4cmである。天井部は低く、比較的平らに近い。稜は丸く、比較的短い。口縁部はハの字形に外反し、端部は弱く凹面をなして内傾する。天井部外面2／3近く、回転ヘラ削りによる調整を行い、内面はやや粗い不定方向のナデ調整を行う。焼成は良好で、胎土は1mm以下の微砂粒を含む。

5は杯で口径10.9cm、受部径13.3cm、器高5.2cmである。底部は比較的丸味をもち、やや外反気味に内傾するたちあがりは高く、端部を丸くおさめる。底部外面は1／2近く、回転ヘラ削りによる調整を行う。焼成は良好で、胎土は1mmの白色粒を含むとともに、2～6mmの砂粒も少量含む。

6は無蓋高杯の杯部と考えられ、口径19.5cmと大型のものである。内側気味に上方に伸び、端部は内傾する面をなす。外面には凸帯を2条巡らし、凸帯の下方に波状紋を巡らす。破片のため、把手が付くかどうかは明らかでない。焼成は良好で、胎土は1mm以下の白色粒を含む。

7は器台の鉢部で、内側気味に伸びる体部外面は沈線によって形成された2条一組の凸帯で紋様帶を画して波状紋も巡らすが、施紋は比較的雑である。焼成は良好、堅緻であり、胎土は1mmの白色粒を多く含む。

8は甕で口径24.0cm、器高51.5cmである。口縁部は外反気味に上外方に伸び、端部は丸くおさめ、内面は凹面状になる。端部からやや下った外面に比較的鋭い1状の凸帯を巡らす。体部は最大径を上位1／3に求められ、肩はなだらかに下る。外面は頸基部から底部まで格子状の叩き調整を施している。内面は丁寧なナデ調整が施され、部分的に同心円叩きの痕跡が認められる。焼成は良好、堅緻であり、胎土は1mm以下の白色粒を多量に含む。



第11図 出土遺物実測図

外面の底部から8cm前後の高さまで、径33cmの範囲の焼成が他より悪く、色調もやや異なっており、焼成時に焼台等を使用した痕跡と考えられる。

### 3.まとめ

今回の発掘調査の行われた昭和町は市内でも古くから住宅開発が進んだ地域であることから、これまで遺跡の存在はあまり知られていなかった。しかし、近年、住宅の建替え等が徐々に進みだし、吹田砂堆の北東に接する微高地で昭和町遺跡、高畠遺跡、高城遺跡といった遺跡が新たに確認、あるいは範囲が拡大された。昭和町遺跡B地点も平成9年度に確認、調査された遺跡であり、今回の調査も新たな遺跡範囲の拡大に伴うものであった。調査面積は12m<sup>2</sup>と小規模なものであり、遺構の検出も限られたものであったが、出土した遺物等から遺跡の性格の一端が確認された調査であった。

調査では中世及び古墳時代の遺物包含層を確認するとともに、古墳時代遺物包含層の下層において遺構面を確認し、調査区の北半部において溝1条、土坑1基を検出した。中世の遺物については瓦器、土師器皿、瓦質土釜等がみられ、12世紀から15世紀にかけてとやや時期幅の認められる資料である。

古墳時代の遺物については、須恵器は陶邑編年案におけるI型式2ないし3段階の資料と考えられ（大阪府教育委員会「陶邑III」1978）、検出した遺構についても、この時期に属するものと判断される。検出した遺構の性格については調査面積が限られることから明ではないが、溝の南側肩近くで明確に掘えられていたという痕跡は認められなかつたが、須恵器甕1個体が確認されたことや、調査区内では遺物包含層である黒灰色粘土層の堆積範囲が溝の北側肩部分とほぼ一致することから溝と黒灰色粘土層の堆積が関連するものである可能性も考えられる。

遺跡の性格についてであるが、平成9年度の調査においても同様の須恵器資料が認められ、さらに、平成6年度に確認された昭和町遺跡では陶邑I型式1段階の資料が確認されており、一帯に当該期の集落の展開することが考えられる。

一方、昭和町遺跡や昭和町遺跡B地点の北西約2kmの千里丘陵南方の沖積平野上に立地する垂水南遺跡は、竪穴建物、掘立柱建物、土坑、井戸、溝等の遺構と共に前期の古式土師器を中心に初期須恵器、木器、石製品等が多量に出土している。土師器には西部瀬戸内、吉備、播磨、山陰、北陸、東海、南関東、駿河地方等他地域からの搬入品が多く認められる。垂水南遺跡の立地は当時の河内湖入口の水上交通の最も要衝の地であったと推定され、搬入土器の様相もその立地とは無関係ではなく、移動に関する拠点的な集落と考えられている。千里丘陵南方の微高地に立地する昭和町遺跡や昭和町遺跡B地点についても立地的に垂水南遺跡と同様に汀線周辺に位置し、水上交通においても自然条件等において優位にあったと考えられる遺跡である。

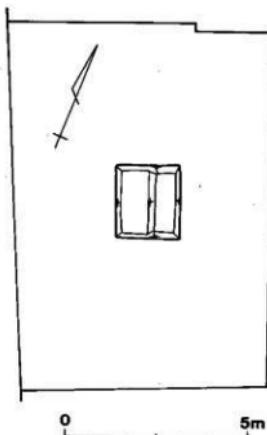
### 第3章 高畠遺跡の発掘調査



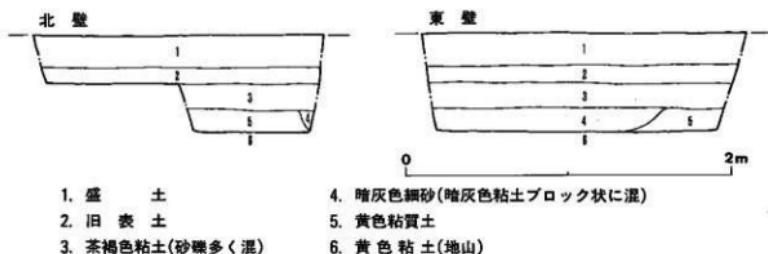
第12図 調査地点位置図

高畠遺跡の発掘調査は個人専用住宅の建設工事に伴い、吹田市昭和町1446-5において平成10年10月16日に実施した。調査地点は高畠遺跡の南西端近くに当たる地点であり、開発予定地内に1ヶ所、調査トレンチを

設定した（調査面積 3.6m<sup>2</sup>）。調査区の土層序は盛土(1)及び旧表土(2)以下、層厚15cm前後の茶褐色粘土(3)、黄色粘質土(5)の堆積が認められる。調査区の北東端において、この黄色粘質土をベースとして深さ約15cmの落込みを確認し、その堆積土は粘土がブロック状に混じる暗灰色細砂(4)であるが、遺物は出土していない。黄色粘質の下層、地表下60cm前後で地山層である黄色粘土(6)を確認したが、地山面上面においても造構や遺物の出土は確認されなかった。以上のように今回の調査においては明確な造構・遺物包含層は確認されなかった。



第13図 調査区平面図



第14図 土層断面図

## 第4章 七尾東遺跡の発掘調査

### 1. 調査の経過

七尾東遺跡は弥生時代の集落遺跡である。平成4年に実施した第1次調査においては竪穴式住居跡を検出し、その後、平成5・6年に行つた第2・3次調査においても、それに関連するであろうと考えられる溝や土坑、ピットなどの遺構を検出している。

今回の発掘調査は、当地で住宅の建築工事が計画されたことから、事前に遺構・遺物の包含の有無を確認することを目的に実施したものである。調査については、平成11年1月26日に重機を用いて実施した。



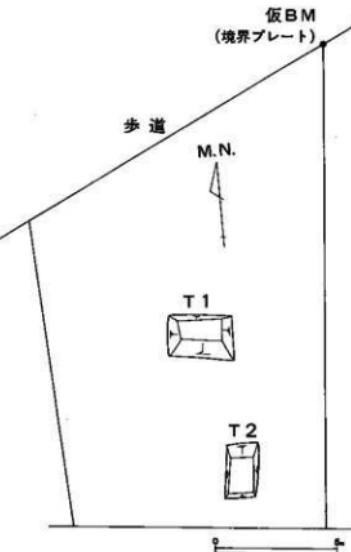
第15図 七尾東遺跡発掘調査地周辺図 (1:5000)

### 2. 調査の成果

調査地は、もとは耕作地であったが、当地の北側に敷設された都市計画道路の地盤高に合わせる形で簡単な盛土が行われ、道路側（北側）に厚く盛土がのっている。

調査トレンチ内の土層堆積状況をみると、T1では約1.2mの盛土層下より、旧耕土層〔第2層〕、黄灰色砂質土層〔第3層〕、暗褐色粘土層〔第4層〕、黄灰色粘土層〔第5層〕がほぼ水平に堆積しているのが認められた。また、T2においても盛土層の厚さは約10cmと薄いものであったが、T1とほぼ同レベルにおいて、同様の土層の堆積が認められた。

これらの土層にうち、第4層内にわずかながら弥生土器と思われる細片の包含が認められた。そして、T2では、第4層下より、第5層をベース面としてピットを4基検出した。これらビ

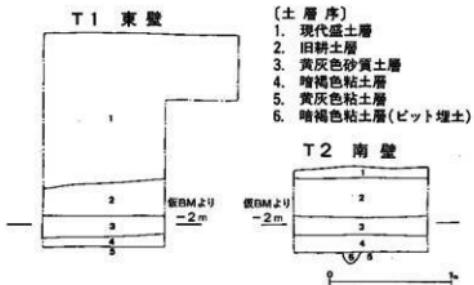


第16図 調査区平面図

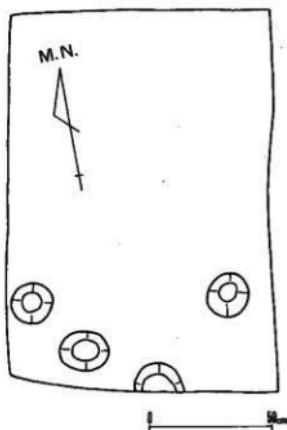
ットの径は約15~20cmを測り、その深さはおおむね10cm未満と浅いものであった。そして、その埋土は第4層とはほぼ同質の暗褐色粘土であった。

ここで検出された造構・遺物については、調査範囲が限られたものであったことと、出土した遺物が細片であったことから、その性格を特定することは難しい。そこで、これまでに実施した第1~3次調査の成果を踏まえて考えてみる。

これまでの調査においても、今回の調査と同様の土層の堆積が認められている。しかし、そこで確認された遺物包含層や造構内検出の遺物についても、今回の調査と同様に細片が多く、詳細な時期の特定は困難なものであった。その中で遺物の出土量が比較的多かった第1次調査をみると、検出された弥生土器は弥生時代中期のものとみられている。このことから、今回の調査で検出された造構・遺物についても、弥生時代中期のものという可能性が高いということが推定される。そして、第1次調査地点は、当調査地の正雀川を挟んで南側に位置し、先述したように、ここでは竪穴式住居跡を1基検出している。また、第2・3次調査地点は、当調査地の東隣接地となり、ここでは多くの溝や土坑、ピットを検出したものの、建物跡の検出には至らず、第1次調査で検出した造構の内容とはやや差異がみられた。これは推測になるが、当遺跡の南側と北側ではその展開に何らかの違いがあり、例えば、遺跡南側に居住域が広がり、北側ではそれとは異なる性格を有する空間が展開していた可能性などが考えられる。そして、今回検出した造構についても、こうした観点に対応できるものかもしれない。しかし、現段階では不明な点が多く、今後の調査の進展に期待したい。



第17図 調査区土層断面図



第18図 T2 造構平面図

## 報告書抄録

ふりがな	へいせい10ねんどまいぞうぶんかざいきんきゅうはっくつちょうさがいほう
書名	平成10年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報
副書名	昭和町遺跡B地点 高畠遺跡 七尾東遺跡
卷次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	増田真木 賀納章雄
編集機関	吹田市教育委員会
所在地	〒564-0041 大阪府吹田市泉町1丁目3番40号 TEL(06)6384-1231
発行年月日	西暦 1999年3月31日

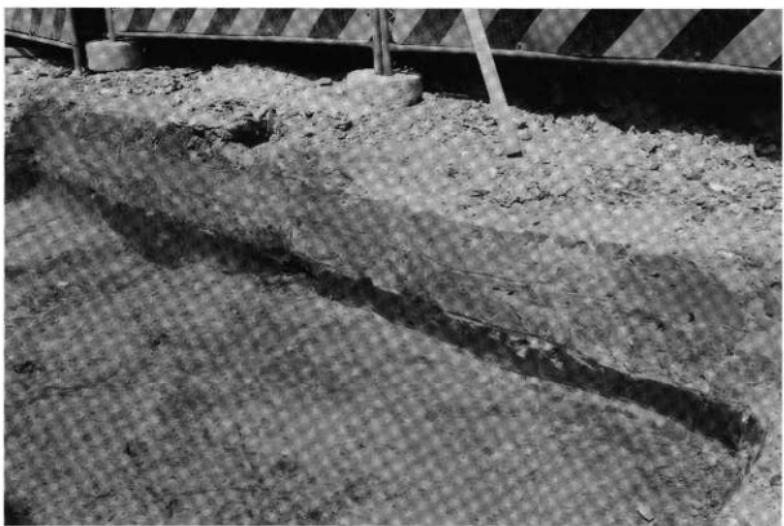
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査 面積m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
昭和町遺跡 B地点	吹田市昭和町 1288-8	27205	128	34° 45' 38"	135° 31' 47"	19980824・ 19980902・03	6.2 (確認) 12 (拡大)	建物の 建築
高畠遺跡	吹田市昭和町 1446-5	27205	126	34° 45' 39"	135° 31' 54"	19981016	3.6	建物の 建築
七尾東遺跡	吹田市山田南 1124-4, 1125-5	27205	123	34° 46' 59"	135° 32' 17"	19990126	6	建物の 建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
昭和町遺跡 B地点	集落遺跡	古墳時代	溝、土坑	須恵器、土師器	なし
高畠遺跡	集落遺跡	古墳時代 中世	なし	なし	なし
七尾東遺跡	集落遺跡	弥生時代	ピット	弥生土器	なし

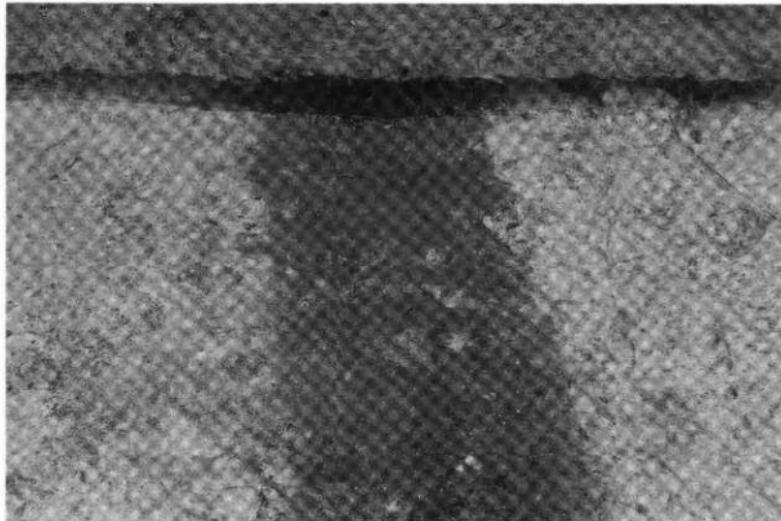
図版一 昭和町遺跡B地点



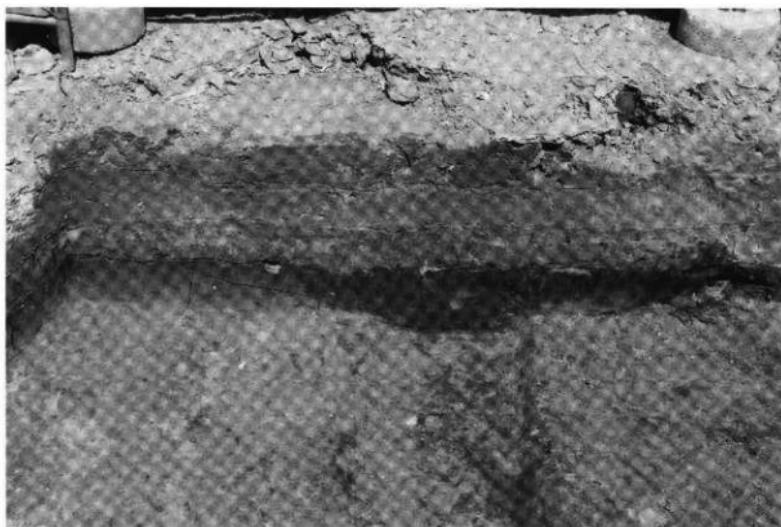
調査地点（北西から）



調査区断面（南から）



SD 01 検出状況（南西から）



SD 01 断面（南西から）

図版三 昭和町遺跡B地点 東調査区(2)



調査状況（南東から）



SD 01 調査状況（南西から）



調査状況（南東から）

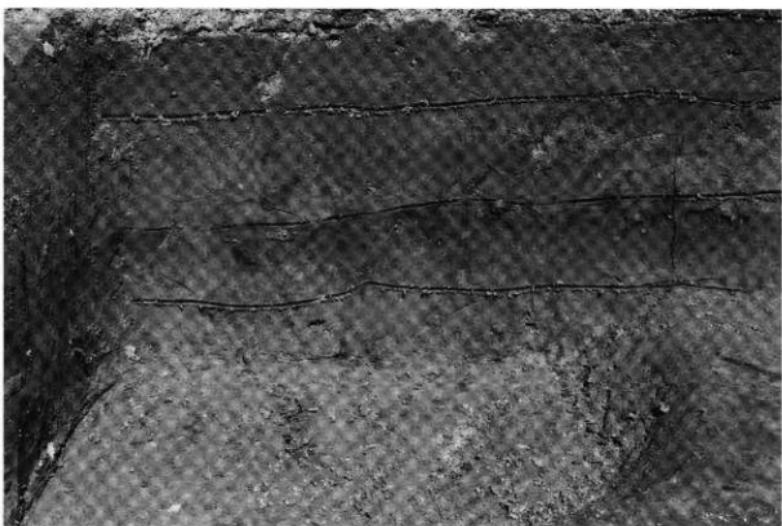


SD 01 調査状況  
(北東から)

図版五 昭和町遺跡B地点 西調査区(2)

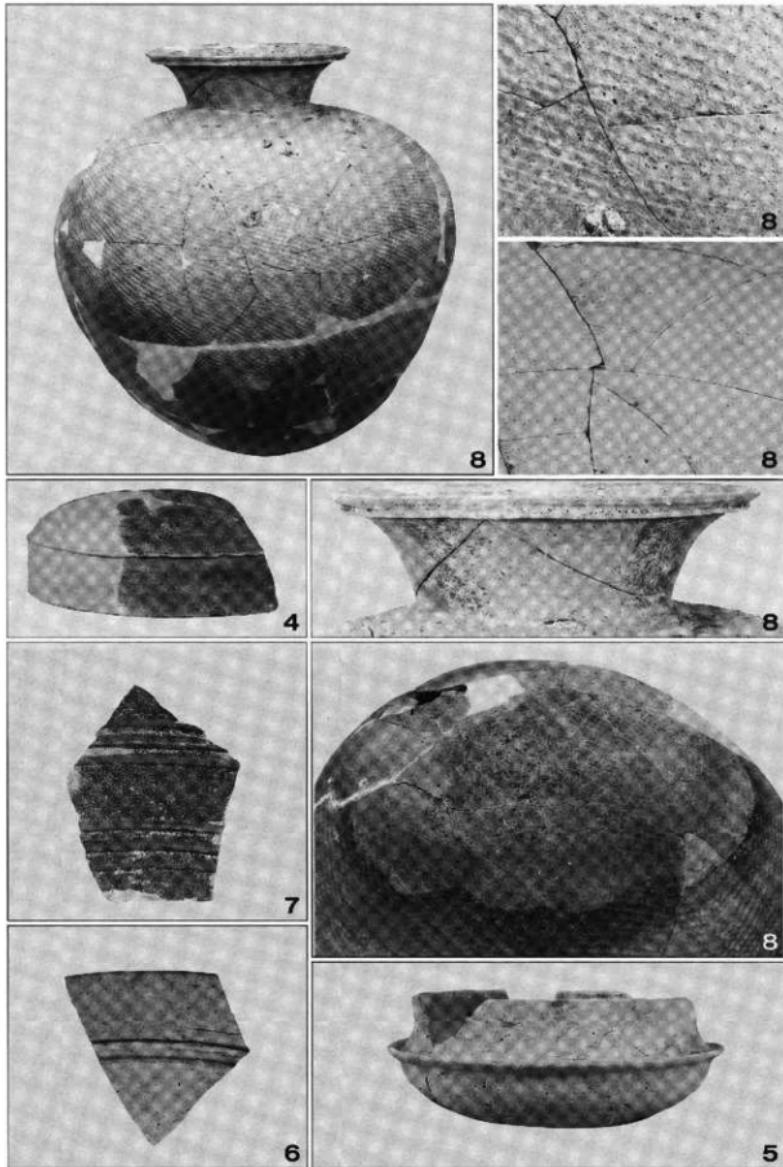


SK 01 調査状況（北西から）



SK 01 断面（南東から）

図版六  
昭和町遺跡B地点出土遺物





調査地点（西から）

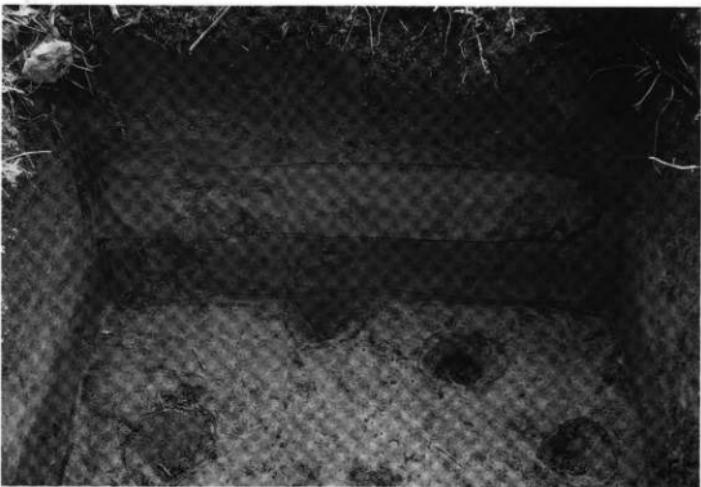


調査状況（南西から）

図版八  
七尾東遺跡



T 1 (西から)



T 2 (北から)

【平成10年度】

**埋蔵文化財緊急発掘調査概報**

昭和町遺跡B地点

高 畑 遺 跡

七 尾 東 遺 跡

平成 11 年 3 月 31 日

編 集 吹田市泉町1丁目3番40号  
発 行 吹 田 市 教 育 委 員 会